



「地域学校協働活動だより」は枕崎市のホームページにも掲載されています。スマホで読み取ったり、パソコンで検索して、カラー写真付きの記事をご覧ください。

### ～子供たちが松明(たいまつ)持って大活躍～ 田布川集落 鬼火焚き

田布川集落で1月7日に毎年恒例の「鬼火焚き」が行われ、安寧と無病息災を願う大きな炎が燃え上がりました。



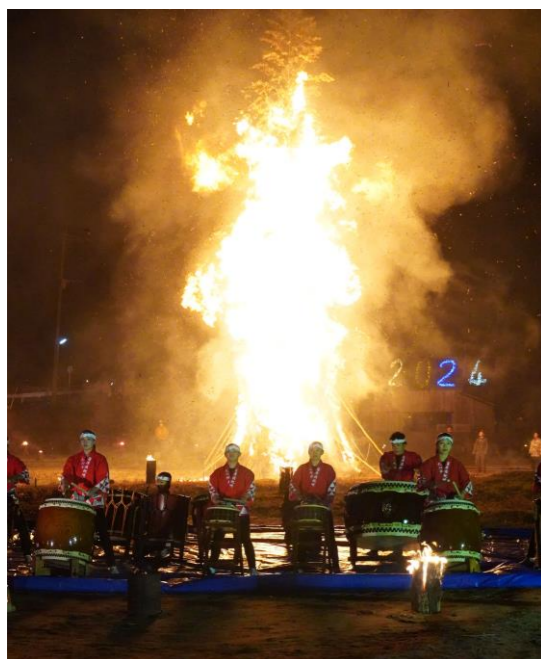
子火を持って練り歩く子供たち

鬼火焚きとは、竹で組まれたやぐらとともに正月飾りを焼いて、正月飾りについてきた悪霊(鬼)を追い払う鹿児島島の伝統行事です。以前は県内で正月の七日に行われ、鬼火焚きの残り火で餅を焼いて健康を祈願していたとのこと。

田布川集落内の田んぼに鬼火焚きのやぐらが生まれ、やぐらを囲むあぜ道には100個以上の杉トーチがともされました。子供たち65人が子火を持って集落内を練り歩いて、やぐらの前で待ち構える大人たちに子火を受け渡す大役を務めました。

その後、大人たちの親火でやぐらに火を付け、鬼火焚きの炎が勢い良く燃え上がりました。

燃え盛る炎をバックに「火の神乙女太鼓 爽」の太鼓演奏と「枕崎舞炎鯉」のよさこいが披露され、約300人の観衆を楽しませました。炎と競うように花火も上がり、大きな歓声が上がっていました。



燃え上がる鬼火焚きをバックに「火の神乙女太鼓 爽」の太鼓演奏

別府小学校では12月4日に校内持久走大会を開催し、当日は県下一周駅伝川辺チームの茅野雅博さん(南さつま市消防本部)、石山大輝さん(鳳凰高校教員)、西元光樹さん(南薩地域振興局)、蔵満周平さん(加世田高校教員)の4選手に指導をしていただきました。持久走大会は、1・2年生800m、3・4年生1200m、5・6年生1500mですが、それぞれ男女別にレースがあり、4選手は全6レース全てに伴走し、先頭を引っ張ったり、中盤で子供たちに声を掛けたりして、合計7キロを子供たちと一緒に走りました。

子供たちは駅伝選手の軽快な走りに驚きながらも、頑張っ一緒に走り、保護者・地域の方々から、多くの声援を受けていました。

出場した児童一人一人が「自分史上最高の走り」を目指して、精一杯の走りを見せてくれました。苦しさの中にも真剣な表情で走り抜く姿は、とても感動的でした。

### ～持久走大会で 県下一周駅伝選手が 子供たちの伴走～ 別府小学校



5・6年生の男子児童と伴走する駅伝選手

### ～4年振りに「ハマテゴ」を開催～ 枕崎校区 小江平地区

小江平地区(桜木町公民館、緑町公民館)に伝わる「ハマテゴ」が、1月2日に桜木町の小江平公民館で4年振りに行われました。明治以前からあった行事を昭和47年に復活させて今に伝わる正月の伝統行事で、県内でも珍しい貴重な行事と言われています。



転がるダイダイを目がけて矢を放つ子供たち

1月24日からの「全国学校給食週間」を前に、枕崎小学校では1月16日に地元食材の生産者との交流授業が行われました。野菜生産農家の山崎己代治さんに来ていただき、給食センターの椎葉先生と一緒に1年生の2クラスで「すききらいなく、なんでもたべられるようになろう」をテーマに話をしてもらいました。



自分で作った野菜について説明する山崎さん

ハマテゴとは、緋(かすり)の着物を羽織った子供たちが竹製の弓矢で転がるダイダイをめがけて矢を放ち、魔を祓い子供の「テゴ、テゴ」と勝ちどき一年間の無病息災を願うもので、射止めた子供は、ダイダイが刺さった矢を持ち上げて「テゴ、テゴ」と叫びながら回ります。

この日は約20人の子供たちが弓矢を手にして狙いましたが、ダイダイは的が小さくなかなか当たらないため、途中から大きめのボンタンにしたところ当てる子供が続出。ボンタンが刺さった弓を高々と掲げ、「テゴ、テゴ」と元気に勝ちどきを上げていました。



### ～地元の野菜生産者を迎えて 食育の授業～ 枕崎小学校

山崎さんからは自分で作った様々な野菜についての紹介があり、どのように丹精込めて作っているのか子供たちに話をしました。

椎葉先生からは野菜の働きなどについての説明があり、「にんじんは目の健康を保ってくれる野菜であり、給食にも良く入っている。みんなも作ってくれた人に感謝して給食を残さずに食べてほしい。」と子供たちに呼びかけていました。

枕崎地区公民館の青少年講座「書き初め」が、1月6日に中山香一郎さんの指導で枕崎地区公民館で行われ、小学生5人が参加して今年目標などを毛筆で書き上げました。子供たちには前もって書き初めで書く言葉を考えてきてもらい、当日中山さんが言葉と名前の手本を書いて、手を取りながら毛筆で文字を書く指導を行いました。

### ～青少年講座で新春の書き初め～ 枕崎地区公民館

初めて筆を持つ小学1年生の児童もいましたが、「正月」「お年玉」「辰」「元気」「平和」と、5人それぞれ毛筆で書く文字を練習し、満足のいく作品を書き上げていました。

参加した子供たちは、楽しく書道に取り組み様子で、あっという間の書き初めの時間でした。



指導の中山さんと子供たち